

栃の木からの手紙

2017年 11月号



雪虫 9 / 27 白鳥 10 / 5 初霜 10 / 17

初氷 10 / 19 初雪 10 / 23、この秋の自然界の事象を確認した日。ここ数年、事象の確認日が早まっています。

特に今年は、例年より2、3週間も早い雪虫の飛翔に季節の早い移ろいを感じた秋。11月4日朝には、一面の雪景色7cm位になり雪が降り続けている。初雪も積雪時期も昨年と同じ日。

自然界に恩恵を与え続ける太陽でさえも、活動が不活発になる時期になっているといいます…。

11月 霜 月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7日： 立冬

14日： 満月 : 旧 9月 16日

18日： 新月 : 旧 10月 1日

22日： 小雪

23日： 勤労感謝の日

自然農法ジャガイモ食べ比べ

報徳会館 つどうむ21 10時～13時



10月に行われた2件の農産物販売。

15日は大空町での輝農祭（左中写真）

22日は北見センターでのオホーツク収穫祭（左下写真）

それぞれに農産物の売れ筋は異なりますが、同じ芋の小袋販売にしてもお客さんへの販売案内を変えた事で自然農法の芋を前回より多くのお客様に購入して頂きました。

要はなんの事は在りません。空の芋の10kg箱を用意しておいて小袋販売している各種の芋を詰め合わせて頂く事（他店の品物を混ぜても構いません）。

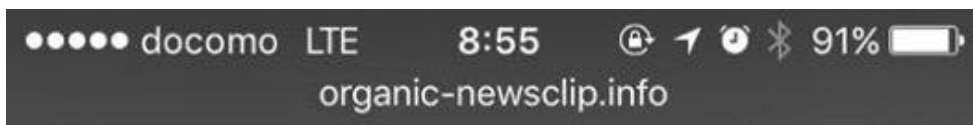
10月中下旬に遣って来た2個の大型台風の影響で被害は在りませんでしたがおホーツク収穫祭は台風通過の前日。雨・曇りの天気で行事開催に大きな支障は無く無事に農産物等の販売を行いました。

10月28日に予定していました「自然農法芋の食べ比べ」は、諸事情により11月23日に変更させて頂きました。

今年7月頃、厚生労働省において食品の残留農薬量の見直しが進んでいます。これって、私たちにとって良い事なのか？ 資料を添付します。



食品中の農薬（グリホサート）の残留基準値を見直し大幅に緩和する厚労省の動きに、パブリックコメントを送りましょう。締め切り 7月20日まで



・厚労省, 2017-3-22

グリホサート (案) 📄

● 主な緩和品目と残留基準値

[ppm]

食 品	現 行	変更案	国際基準	備 考
小麦	5	30	30	申
大麦	20	30	30	
ライ麦	0.2	30	30	
とうもろこし	1	5	5	IT
そば	0.2	30	30	
その他の穀類	20	30	30	
小豆類	2	10	10(豪)	IT
その他の豆類	2	5	5	
テンサイ	0.2	15	15	
しゅんぎく	0.1	0.2		
ぶどう	0.2	0.5	0.5(EU)	IT
ひまわり種子	0.1	40	40(米)	IT
ごま種子	0.2	40	40(米)	IT
べにばな種子	0.1	40	40(米)	IT
綿実	10	40	40(米)	IT
なたね	10	30	30(米)	IT

備考欄の 「 申 」 … 国内での新たな適用申請

「 I T 」 … 輸入にかかる新たな申請

岡本 よりたかさんがアルバム「GMO-library」に写真を追加しました。

文 : 7月19日 岡本 よりたか 氏

「小麦の除草剤残留基準値」

小麦を栽培してきた僕としては大変残念なお話である。

小麦などの穀物は、収穫後に乾燥という作業がある。それをしなければ穀物が黴てしまうからだ。

僕の場合は天日乾燥をする。国内では一般的には乾燥機を利用して温風乾燥させる。それを、収穫直前に除草剤を散布させるという荒技でやってのける国がある。アメリカだ。

除草剤をかければ小麦は枯れるわけだが、枯れるということは乾燥するという事だ。茎や葉や根が枯れたところで種だけ取り出せば、種が乾燥した状態で保存できる。

以前は大豆の落葉に使用されていた。いや、今でも使われている。大豆は葉を落とす事で収穫が可能になる。ラウンドアップという除草剤を販売する日産化学でもそれを推奨している。

日本の農家においては、そうした乱暴な方法を取る人はいないと信じたいが、他国では普通にやられている。だから輸入大豆の除草剤の残留基準値は異様に高く設定されている。これは事実だ。

今回は、収穫前除草剤散布を推奨する米国からの輸入小麦に関して、除草剤の残留が大きくなってきたため、小麦輸入などをつつがなく行うために、残留基準値を上げようとしている。

つまり、小麦も大豆並みに、除草剤の残留基準値を上げるという事だが、その除草剤とは、あのモンサント社が開発したグリホサートである。モンサント社のグリホサート成分の除草剤は日産化学がラウンドアップという商品名で販売している。

「小麦は食べるな」という本が売れていたが、それに踊らされて小麦を悪者にしてきたが、悪いのは小麦ではなく栽培方法である。セリアック病もグルテン過敏症も、こうした乱暴な栽培や品種改良が原因である可能性が高い。

この残留基準値を上げる案に対し、現在、国はパブリックコメントを求めている。是非、反対のコメントを送付してください。（コメントの受付は、7月20日に終了しました）。